

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

平均正答率

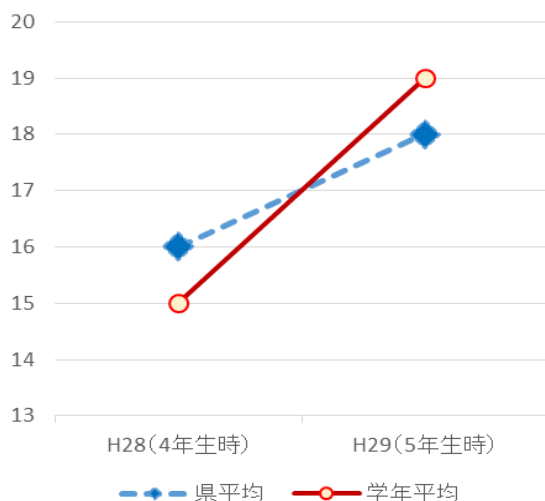
※ここで示す県との比較は、県平均を 100 とした場合の深谷小の値です。

年度	教科	国語			算数		
	学年	小4	小5	小6	小4	小5	小6
H29	深谷小	68.3	69.6	72.1	64.4	62.4	70.5
	県	67.3	67.6	68.2	61.8	61.6	62.3
	県との比較	101.5	103.0	105.7	104.2	101.3	113.2
H28	深谷小	57.9	65.4	68.3	66.4	71.2	74.5
	県	59.9	64.5	60.4	68.6	68.9	65.8
	県との比較	96.7	101.4	113.1	96.8	103.3	113.2

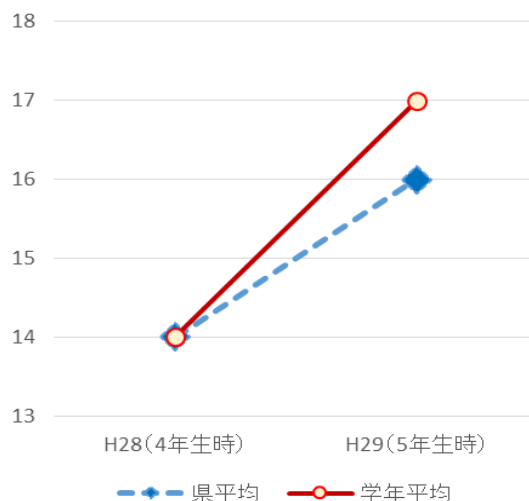
経年変化「学力の伸び」

※ここで示す学力レベルは、数値が高いほど学力レベルは高くなります。

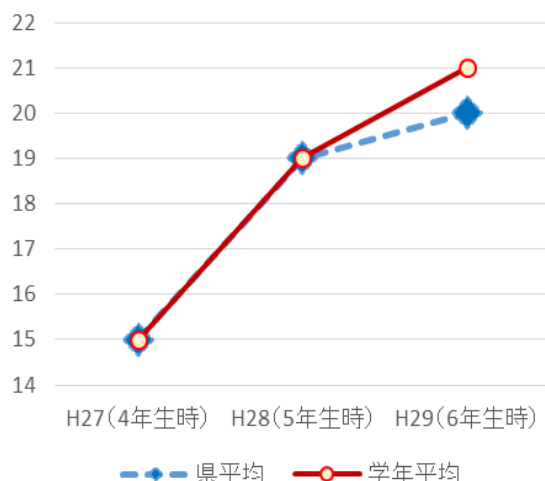
現5年生の学力の伸び(国語)



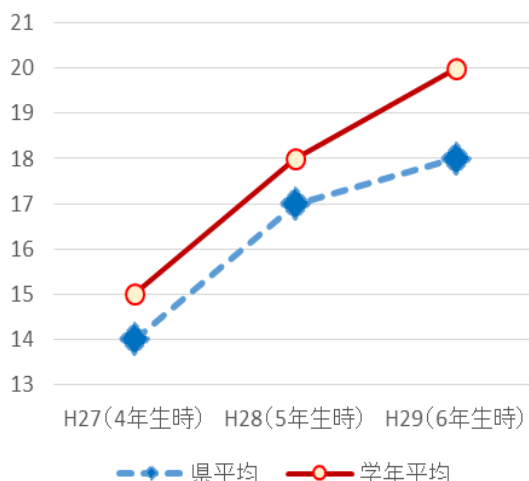
現5年生の学力の伸び(算数)



現6年生の学力の伸び(国語)



現6年生の学力の伸び(算数)



深谷小学校の「よかった点（○）」と「課題（●）」

○学年が上がるにつれて、学力の定着が図られてきている。5, 6学年では伸びが確認できた。特に6学年は、県平均を上回る項目が多かった。

○どの学年の正答率も、県平均を上回ることができた。特に、昨年度の4学年の正答率は県平均を下回ったが、今年度の5学年は県平均を上回ることができた。

【4 学年】国語・算数ともに、中間層の底上げが必要である。また、記述式の正答率が低い。

【5 学年】全体的に向上傾向だが、2 極化が課題で下位層の底上げが必要である。

【6 学年】算数では、短答式はもちろん、記述式の正答率の向上がみられる。

【国語】

○短答式の正答率は全体的に高い傾向がある

○ばらつきなく学力が向上している

●記述式の正答率や書く力が低い

●話す聞く力が低い

●中間層の底上げが必要である

【算数】

○全体的に向上している傾向がみられる

○下位層が減少してきている

●上位層と下位層の2極化傾向が見られる

●数学的な考え方や表現力に課題がある

【質問紙】

○あいさつ、言葉、靴そろえなどの生活習慣は、どの学年も定着している

○学校の宿題に関しては、毎日欠かさず取り組んでいる児童が多い

●学年が上がるにつれて、「勉強することが楽しい」と感じる児童が低下してしまう

●6学年になると、地域の歴史や自然とのつながりが薄れてしまう

課題への取組・改善策

【国語】

・書く活動をどの教科でも意識的に取り入れたい

（自分の考えを書く活動、友だちの考えを書く活動、まとめや振り返りを書く活動など）

・聴くことに重点を置いた学習活動を展開していきたい（学習規律を含めて）

・作文指導は低学年から計画的・継続的に取り入れる

・人に説明する力や人を納得させる力をつけさせるような学習活動を展開する（根拠を明確に）

【算数】

・下位層に焦点を当てた少人数指導や個別指導を効果的に取り入れたい

・学力検定やドリル学習などの反復学習により、児童が学習を達成するまで見届けていく

・基礎基本を繰り返し徹底して指導していく

【その他】

・学力向上の土台となる学習規律や支持的学級風土の定着を図っていきたい

・「深谷小スタイル」や「深谷小学校の約束」の共通理解と共通行動を徹底する

・ふるさと教育の充実を図り、地域にふれ地域に愛着をもつ児童を育成する